

平成 30 年度 学校教育自己診断分析

対象別

<生徒>

- ・ほぼ全ての項目において肯定率が増加した。教職員集団による日頃の教育活動の成果であり、学校として嬉しい結果である。特に、授業における満足度が大きく増加したことについては、授業改革に向けた教員個人はもとより、組織の取組みが生徒の満足度に繋がっていると思われる。学習指導要領改訂のなか、引き続き、生徒にとって「必要な力」、そしてその力をつけるための「効果的な教授法」について、組織的な授業改革は課題である。
- ・教員側の生徒に対する人権意識の向上により、「教員からの寄り添い」を感じる生徒が増加したことがうかがえる。生徒の多様化が進むとともに、共生推進教室を設置している本校にとって、教員集団のカウンセリングマインドの向上はとても大切な視点である。
- ・今後の課題としては、家庭学習時間の増加、行事の満足度の向上、生徒の（背景を考慮したり内面に踏み込むなど）説得、納得に基づいた生徒指導の確立などがある。

<保護者>

- ・生徒同様、ほぼ全ての項目で肯定率が増加した。生徒の満足度が保護者に伝わったこと、教職員が丁寧に保護者対応を行なっていること、情報提供をしっかりと行っていることなどが要因であると思われる。
- ・「6. 担任は必要に応じて家庭へ連絡している。」81%、「7. 学校は生徒指導についての連絡を適切に行い、保護者との意思疎通に努めている。」77%、2 項目の肯定率が 4 ポイント増加した。担任を中心に、きめ細やかな保護者連絡をおこなっている成果の現れである。
- ・「27. 学校のホームページを見る。」79%は 14 ポイントの大幅な増加を示した。日頃の学校の様子はもとより、修学旅行をはじめとする様々な行事や部活動の活躍、緊急連絡など多岐にわたる発信を行なった結果である。閲覧する保護者が増加したことは、今後ホームページを通して、本校の教育活動や生徒の様子を効果的に発信していく大きなチャンスである。

各カテゴリー別

<学校生活>

- ・「1. 学校へ行くのが楽しい」 生徒 77%・保護者 81%、「2. 学校に信頼できる友達がいる」 生徒 91%・保護者 92%、
「21. クラスには話しやすい雰囲気がある」 生徒 84%、「保 13. 学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きとしている」 保護者 81%の肯定であった。多くの生徒が、安心した高校生活を送っていることがうかがえる。
- ・「16. 先生は悩みや相談に親身になって応じてくれる」 生徒 65%、「先生はいじめなど、困っていることに真剣に対応してくれる」74%、両質問についての肯定率が昨年度より 5 ポイント向上した。教員側の生徒に対する寄り添い感が伝わっている。多様な生徒が入学してくる状況のなか、大切な視点であると言える。

<学習活動>

- ・「11. 興味・関心、適性・進路希望に応じて選べる選択科目が多い」 生徒 90%、「3. 自分の学力にあった授

業が多い」生徒 82%、「5. 実験、観察、実習など、体験的に学ぶ授業や行事がある。」生徒 65%と3項目の肯定率が昨年度より5ポイント増加、さらに、「4. 興味・関心を持って取り組むことのできる授業が多い」生徒 69%、「7. 授業では、自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表することがある」の2項目の肯定率は10ポイント以上増加した。教員側の授業の工夫や努力が結果として表れている。

- ・「14. 学校の授業以外に、平均すると1日1時間以上学習している」45%は年々減少している。理想は生徒自身の内的動機に基づいた学習習慣であるが、まずは、家庭における学習習慣を確立するための取組み（宿題など）をもう少し強化していく必要がある。今後、教科、学年における取組が望まれる。

<キャリア教育>

- ・「19. 将来の進路や生き方について考える授業や行事がある」生徒 83%、「20. 進路についての情報をよく知らせてくれる」生徒 82%、「保 8. 将来の進路や職業理解について適切な指導を行っている」保護者 83%の肯定であった。進路指導部、担任を中心とした「総合学科の強みであるキャリア教育」の成果といえる。

<生徒指導>

- ・「15. 学校生活についての先生の指導には納得できる」生徒 44%の肯定であった。微増したものの未だ低く、引き続き「説得」「納得」に基づく指導を心がけていく必要がある。保護者においては「12 学校の生徒指導の方針に共感できる」72%、と一定の理解を示していることがうかがえる。

<人権意識・人権教育>

- ・「生 24 人権の大切さについて学ぶ授業や行事がある」生徒 75%、「生 25 障がい者のことや、共生の大切さについて学ぶ授業や行事がある。」生徒 66%、と両項目とも肯定率が3～4%増加した。保護者においても「18 学校は人権を尊重する意識を育てようとしている」83%と高い肯定率を示した。生徒指導同様、生徒の人権感覚を高めるためには、まず、人権教育をおこなう教員自身が高い人権感覚を持たなければいけない。今後も研修などの機会を通して人権感覚に溢れた教員集団を確立していくことが大切である。

（参考）今年度実施した教職員研修

- ・「不登校生徒支援モデル事業」を活用した不登校生徒への対応についてのワークショップ型研修
- ・LGBT当事者を講師に招いた、性的マイノリティーに関する研修
- ・保護者と教員が一緒に参加した、PTA共催による「子どもを元気にする関わり方」についての研修

<情報提供>

- ・「学校のホームページを見ることがある」生徒 40%、保護者 79%と肯定率が大幅に増加した。トップページを改善し、検索し易くしたことに加え、動画での学校紹介、修学旅行などの行事、部活動の活躍、さらに緊急ブログを開設し緊急時の対応などをタイムリーに伝えたことなどが結果につながった。保護者「28 学校のホームページや携帯電話メール配信の内容は適切である。」94%、「学校は教育情報について提供の努力をしている」91%、と情報提供に対する保護者の肯定率は非常に高い肯定率を示した。

引き続き、検索回数が増加したホームページを活用しながら、生徒の元気な姿、様々な場面での活躍を在校生・保護者はもとより、地域や中学生にも発信していくとともに、学校からの情報発信の手段として、学校教育活動の周知および危機管理における緊急連絡などを充実させることが必要である。